

広島市立大学塾活動報告書

【活動日】11月30日、12月1日の2日間

【訪問場所】11月30日 長島愛生園

12月1日 広島県竹原市大久野島

【参加者】広島市立大学9名、広島経済大学12名 計21名

【長島愛生園訪問】

長島愛生園は岡山県瀬戸内市に位置している国立のハンセン病患者の療養所である。広島市立大学塾では11月27日の活動で長島愛生園の学芸員を務めていらっしゃる田村さんを招き、ハンセン病についての講演を聞いた上で、今回訪問を行った。

2019年6月28日熊本地裁がハンセン病元患者家族への差別被害を認め、国に賠償を命じる判決がなされた。この判決に安倍首相は控訴を見送り、7月24日には原告らに対して謝罪の意を表した。これは国がハンセン病元患者やその家族たちが受けた差別を認めたということになる。

このような大きな出来事があったにも関わらず、私自身ハンセン病についてやその当時の社会状況、ハンセン病元患者やその家族が受けてきた差別や苦しみを今まで全く知らなかったし、考えたこともなかった。

長島愛生園には2019年10月7日時点で146名の入居者がおり、平均年齢は86、2歳である。現在日本人で新たにハンセン病にかかる方はいない。また長島愛生園に入居されている方でハンセン病患者の方はいらっしゃらない。ここに入居されている方はハンセン病の元患者であり、ハンセン病によって後遺症を持った方々である。この事実は田村さんのお話を聞くまで知らなかった。

長島は瀬戸内海に囲まれた島でとても穏やかで静かな場所であった。しかし、見方を変えると社会から隔離されている印象も抱いた。長島愛生園に入居されている方や退所されて社会復帰を果たした人々はどのような思いを持ちながらここで過ごしていたのだろうかと思いをめぐらしながら島を歩いていた。

元々訪れる前は療養所という場所というイメージから小さな病院のようなものをイメージしていた。だが、実際は想像していた場所と違い一つの村として機能していた。長島愛生園には十坪住宅と呼ばれる家屋が多く建っていたり、学校や畑などもあったりしてそこで社会が成り立っていた。またこの長島愛生園では一般通貨が使用できず、代わりに長島愛生園でのみ使用できる園内通貨が流通していた。それにこの園内通貨専用の口座も用意されていた。これは入居者の島外への逃亡を防ぐためであったようだ。

この長島愛生園を訪れて印象的だったことは、この場所があったことで救われた人々がいるということだ。確かに、ハンセン病にかかった人々は家族と半ば強制的に家族と別れさせられ、長島愛生園に入居し改名や結婚する際には墮胎させられるなど人権侵害を受けた。またその家族も改名したり、差別を受けたりと悲痛な経験を味わった。この事実を私

たちは受け止めなければいけないし、このようなことは断じてあってはならない。しかし、田村さんの話によると、ハンセン病の元患者さんの中で生まれた家にいるときは一歩も外に出られなかった方が、長島愛生園にきたことで太陽の下を歩けるようになったとおっしゃっていた。長島愛生園で生きてこられた方はここで生きていくことの覚悟を決め、強く生きてきた人々である。入居者一人一人のストーリーがあり、一人一人の思いがある。新聞やニュースで得る情報と実際足を運んで自分の五感で感じ、直接話を聞くのとは感じ方も、得られる内容も異なるものだった。



(写真1 入居者だった方が制作した長島愛生園の模型)

【大久野島訪問】

2日目は大久野島を訪問し、ボランティアガイドの山内さんに毒ガス資料館や毒ガスを製造していた際の遺跡を巡った。

現在大久野島はウサギの島として国内外から注目を集め、観光客を多く集めている。今回訪れた際にも、家族連れや外国人観光客など多くの人々がこの島を訪れ、ウサギとの触れ合いを楽しんでいた。そんな明るい、光の面がある大久野島だが戦時中は多くの毒ガスが製造されていた島というイメージは多くの人々にとってはあまり馴染みがない、もしくは知られていない過去なのではないのかと思った。私自身も過去に1度大久野島に渡ったことがあるが、この時はウサギに会いに行くということが目的であり、毒ガスの島だったということは「小さな毒ガス資料館があるな」と思うくらいでほとんど知らなかった。しかし今回の訪問を通して大久野島の影の部分。つまり、毒ガスを製造していた過去を知ることができた。

大久野島では陸軍の毒ガス工場が置かれ、猛毒のイペリットという毒ガスや青酸、催涙ガスなど様々なものが作られた。その多くが中国や東南アジアで使用され、多くの人々が戦時中毒ガスに苦しんだ。それに加え、毒ガス製造に携わった作業員も防護服の隙間などから毒ガスを吸引し、気管支炎を引き起こすなどして病気に苦しんだ人も多くいた。

大久野島には毒ガスを製造していた頃の遺跡が多く残っている。毒ガスを貯蔵していた場所や毒ガスを貯蔵していた陶器製の容器の破片などが今なお落ちていた。ガイドの山内さんによるとまだ島内には毒ガスが埋められている可能性があるという。

ウサギの島として近年では賑わっている大久野島だが、過去の悲しい歴史を忘れてはいけない。



(写真2 白い物が毒ガスを貯蔵していた陶器製の破片)



(写真3 島内で最大級の毒ガス貯蔵所斜面を掘削して作られている)

【二日間を通して】

私自身、知らない日本での差別や偏見、悲惨な過去を知る2日間となった。では知らないことを知るためにはどうしたらいいか。長島愛生園の学芸員の田村さん曰く、「関心を持つこと」。確かにその通りだと思う。関心がなければ自ら情報を得ようとしないうち、行動しようとも思わないだろう。しかし、それだけでは不十分であると考えている。自分たちが関心を持ち、正しい知識や情報を得た上でどうアクションを起こすかがより大切だと思う。行動につなげてこそ知識や情報は意味を持つ。おそらく私は障害を持った方々を前に

すると少し戸惑ってしまうだろう。しかし、これからはどうその戸惑いを抑えていつも通り接することができるか。自分の行動を是正、強化ができるように常に関心のアンテナを高く張り、正しい知識、情報を積極的に得ていきたい。

参考資料

長島愛生園歴史館パンフレット

大久野島毒ガス資料館パンフレット

「首相、ハンセン病家族に謝罪」「身内に元患者隠す苦しみ想像を」『朝日新聞』 2019年7月25日

「首相、元患者家族に謝罪」「首相、政治判断で異例対応 救済策は課題山積」『中国新聞』 2019年7月25日号